

SALON DU CYCLE PARIS (パリ国際自転車展) 参観報告

フランス、パリにて標記自転車展が 2009 年 10 月 2 日(金)～5 日(月)の 4 日間、開催された。本年は当初、隔年毎のオートバイと合同の二輪車展の予定であったが、オートバイ部門の開催が中止となったため、今回は自転車単独での開催となった。

【SALON DU CYCLE PARIS 2009】

主催：Modial du Deux Roues

会場：Paris Port de Versailles

会期：2009 年 10 月 2 日(金)～5 日(月)

開催時間：ビジネス・10/2 及び 10/5 9:00～19:00

パブリック・10/2 17:00～22:00、10/3～4 10:00～20:00

10/5 9:00～19:00

展示面積：ホール 3、約 9,000 m²

入場者数：42,839 人(うちビジネス客 1,500 名、取材陣 300 名含む)

出展社数：143 社 325 ブランド ※オフィシャルガイドより集計

(07 年；自転車部門 213 社 500 ブランド)



展示会場入口



ホール 3 の様子

展示会概要

本年 5 月 11 日、同展主催者はオートバイ製造業者等の出展予定者と会議を行い、昨今の経済不況の影響により 2009 年オートバイ展を中止し、2010 年秋に延期することを決定した。しかしながら、既に約 300 ブランドにも及ぶ参加申し込みがあった自転車展に関しては、2009 年 10 月の開催が改めて確認された。

今回の出展者は、地元フランスのメーカーでは、ジタン、ビアンキを中心として最大のブースを構える VELO&OXYGEN、プジョーなどが出展していたが、MBK、ラピエールといったフランスのメーカーは出展していなかった。スポーツ車では、地元メーカーの LOOK ブースはいつも来場者で混み合っており、他にはピナレロ、ウィリエール、オルベア、BMC、CUBE 及び

ZEG ブランドの BULLS などが揃っていたが、前回見かけたスペシャライズドやキャノンデールなどの米国ブランドは姿が見られなかった。また、部品・付属品でも、現在身売り話が持ち上がっている MAVIC、Zefal など同国を代表するブランドも見られなかった。

展示場所は前回と同じホール 3 であったが、2007 年に比べ出展者数は前回比 32% 減、ブランド数は同比 35% 減と双方とも 3 割も減少し、ホール内の所々に空きスペースが目立った。来場者数は前回と単純に比較はできないが、その展示内容は質量ともに減じており、経済不況によりオートバイ展が中止となる中、自転車展はかろうじて開催にこぎつけた印象が拭えない。今後の同国市場動向を探る上でも次回以降の出展者状況が注目される。



VELO&OXYGEN(ジタン、ピアンキ等)



プジョー



LOOK



ピナレロ

そのような中でも、出展増加が目立ったのは電動アシスト自転車であった。今回は同車種専用の試乗コーナーも設けられ、ジタンをはじめ多くの新興ブランドが試乗車を提供し、試乗コーナーは盛況であった。フランス自転車市場の 2008 年販売台数は前年比 3.4% と僅かであるが減少し、生産台数は同比 6.1% 減、輸出にいたっては 20% もの大幅減と停滞気味であるが、電動アシスト自転車の 08 年販売台数は前年比 62% 増の 15,700 台と順調に推移しており、電動アシスト車には一層の期待がかけられている。また、オートバイ展中止の余波なのか、プジョーをはじめいくつかのブースで電動スクーターの展示も見られた。



電動アシスト車試乗コース



注目を集めたジタンの電動アシスト車

また、今回はシマノの出展もなかったが、日本企業の部品を取り扱う出展者として Techno-J が参加していた。同社はスギノのギヤクランク、MKS のペダル、NITTO のハンドルなど、多くの日本製部品を扱っており、最近、流行の兆しを見せるシングルギヤの街乗りのトラックレーサーが同展でもいくつか見られ、フランスでもそれらに適した日本製高品質部品への需要が見込まれ、同ブースの前でも多くの来場者が足を止めていた。



Techno-J ブース



散見されたトラックレーサー

主催社からの 2010 年の開催日程公表はまだなく、2010 年秋に延期されたオートバイ展と合同の二輪車展となるのか、今回のように自転車単独開催となるのか発表を待ちたい。

以 上

(デュッセルドルフ事務所)